

## 「2020年に向けた東京都の取組 - 大会後のレガシーを見据えて - (素案)」の概要

平成27年12月16日  
東京都

## 目的

- 大会後のレガシーを見据えた東京都の取組の方向性を明らかにする
  - ・ 大会を通じて価値あるレガシーを残していくための取組を、2020年に向けて着実に進める
  - ・ 大会に向けた取組を明らかにすることにより、都民の皆様が大会に関わりを持ち、参加していただくきっかけづくりとする

## 取組の方向性

大会後のレガシーを見据えた8つのテーマについて取組の方向性を提示

- 1 競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます
- 2 大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します
- 3 都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残します
- 4 大会を文化の祭典としても成功させ、「世界一の文化都市東京」を実現します
- 5 オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます
- 6 環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます
- 7 大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させます
- 8 被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます

## 3つの視点

### 東京に

東京2020大会を起爆剤として、成熟都市・東京をさらに発展させ、ゆとりある真に豊かな都民生活を実現する

### 日本へ

オールジャパンで大会を成功に導き、経済の活性化や被災地復興の後押しなど、大会の効果を日本全国へ波及させる

### そして世界に向けて

水素社会の実現に向けた先進的な取組や、東京、日本の高度なテクノロジー、東京のブランド力などを、東京が日本のショーウインドウとして世界に向けて発信するとともに、大会を機に世界との交流をさらに深めていく

## 2回目のパラリンピック

### パラリンピックを通じて、誰もが暮らしやすい東京を実現する

- 東京は、世界で初めて2回目のパラリンピックを開催する都市
- パラリンピックは、ノーマライゼーションの考え方を社会に定着させるなど、社会に変革をもたらす力がある
- このような大きな力を持つパラリンピックの成功がなければ、東京2020大会の成功はない
- 大会の成功に向け、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、ハード・ソフト両面での取組を全力で進め、障害の有無にかかわらず誰もが暮らしやすい東京をつくりあげていく

## 今後の予定

- パブリックコメント募集（11月20日～12月4日）を経て、本年12月末に本公表

## 「2020年に向けた東京都の取組—大会後のレガシーを見据えて—（素案）」 におけるICT関連の取組例（抜粋）

- 東京2020大会では最先端の映像・音響技術を活用するなど、臨場感あふれる大会の興奮、感動を実感できるライブサイトを展開していく。
- 聴覚障害者や視覚障害者との意思疎通を支援するため、ICTを活用したコミュニケーションツールの普及促進を図る。
- 観光案内窓口等への翻訳アプリの導入や、旅行者が旅先で必要とする情報を多言語で提供する双方向・高機能型の観光案内標識となるデジタルサイネージの整備を進め、情報通信技術を活用した観光案内機能を充実させる。
- 外国人旅行者の利用ニーズが高い無料Wi-Fiサービスへの接続環境の向上や利用手順の簡素化へ向けて、地域や民間事業者等の主体的かつ一体的な取組を促進していく。また、外国人旅行者が多く訪れるエリア内において集中的な整備を促進する。
- ICTを活用した自動翻訳技術などにより、大会に訪れた外国人旅行者が円滑に移動し、快適に滞在できる環境を整備するとともに、共生社会の実現を促進する。
- ロボットによるおもてなし・介護支援・産業支援など、新たな技術や製品の開発に取り組む中小企業を支援し、都市課題の解決に活用していく。 など